

城戸議員（広志会）

令和元年 6 月 26 日
教育長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）教員不足への根本的な対応について

他県と比較して、

- ・ 法定数に対し、全体的に教職員数が少ない
- ・ その上で、非常勤が多く、常勤の教員の割合が少ない
- ・ 加えて、常勤の教員のうち臨時が多く正規教員の割合が少ない

といった教員構成となっていることについて、どのように認識し、今後どうしていこうと考えているのか伺う。

併せて、質を確保しながらの教員確保に向けては、広島市と連携した対応は不可欠であり、供給元の大学と連携した対策に取り組むなど、地に足を付けた現実的な対策が求められると考えるが、どのように取り組もうと考えているのか、教育長の所見を伺う。

（答）

本県では、「広島で学んでよかったと思える日本一の教育県の実現」に向けて、様々な教育施策を展開しているところでございます。

こうした施策を一層推進していくためには、少人数指導など、個に応じた細やかな指導の充実に取り組む必要があり、法定数の一部を非常勤講師として活用し、教育内容の充実を図ることが必要であると認識しております。

一方で、常勤職員につきましては、安定した学校運営を行うために、できる限り本務者を配置することが望ましいと考えており、段階的な定数内の臨時的任用教員の解消に向けて、計画的に取り組んでいるところでございます。

また、質を確保しながらの教員確保につきましては、教員採用試験を広島市と共同実施しており、優秀な人材の確保に偏りが生じないように連携して取り組んでおります。

大学との連携につきましては、これまでも教員養成課程を持つ大学に本県の求める教職員像を示すなどの取組を行ってまいりました。

平成 29 年度からは、広島大学等と広島県教員等資質向上協議会を設置し、本県教員に求められる資質についての共通理解の下（もと）、必要な指標の作成など、一体となった取組を推進しているところでございます。

さらに、本県の小学校教員を志す大学生を対象に広島県教師養成塾を平成 29 年度から実施し、児童との触れ合いを通して教職の魅力を実感したり、

教員の仕事を体験し、教員の喜びや苦労等、教職についての理解や意欲を高めるとともに、中山間地域等における教育環境や特色等を知り、その魅力を実感する中で、広島県教育を担う人材の育成にも取り組んでおります。

今後とも、広島市や県内外の大学との連携を強化し、より多くの優秀な人材確保に努めてまいります。